

令和4年度 大学教育再生戦略推進費
デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～Xプログラム～
申請書

※採択時に他の様式を含め一部公表する可能性があります。

代表校名 (連携校名)	九州大学
事業名	ウェル・ビーイングの実現に貢献する高度人文情報人材養成プログラム：人文学×データサイエンスによる「人文情報学」大学院の設置

事業連携機関 (連携校を除く)	なし
--------------------	----

事業の構想等

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料及びカリキュラムツリー等（それぞれポンチ絵A4横1枚）を末尾に添付すること。

①事業の概要等

本事業の目的は、「**人文学的視点**」と**データ分析・人工知能等の情報学**を活用できる**知見の双方を備えた分野横断的な高度専門人材を育成**し、人間社会のためのデータ活用の推進、すなわち「**ウェル・ビーイング社会**」の実現に貢献することである。

そのために、本学の関係組織（テキストや画像を分析対象とした実証的な分析を強みとする「**人文科学府**」、情報・データの保存・管理に関する専門的な研究を深める「**統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻**」、及び、人社系を含む広い研究教育分野に対し**データサイエンスの原理の学修と諸技術の活用を促進する「数理・データサイエンス教育研究センター**」）の協働により、**研究科等連係課程の枠組みを活用した「人文情報連係学府」（修士課程）を設置し、人文学とデータサイエンスのダブルメジャーとしての「人文情報学」を修得**できるようにすることを目指す。

②大学の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

九州大学の第4期中期目標では、「世界最高水準の研究教育を展開する知のプラットフォームとなる。」「データ駆動型の教育・研究・医療を遂行できる大学、DXによって地域と連携して総合知により社会の変革に取り組むDX先進大学となるための体制を構築する。」と述べており、また、本学が目指す「総合知で社会変革を牽引する大学」を実現するために策定した「Kyushu University VISION 2030」でも「オープンデータ等を活用して数理・データサイエンスやAIを学べる研究教育環境の充実を図り、自らの専門分野にそれらの知識・技術を応用できる学生・研究者を育成する。」「高度な知のプロフェッショナル」を育成する分野融合型学位プログラムなどの展開により、多様な能力や価値観をもった博士人材の育成を推進する」ことを謳っている。人文学の要となる人文科学府を基幹部局として、統合新領域学府のライブラリーサイエンス専攻及び数理・データサイエンス教育研究センターの3分野の協働により、新たに「**人文情報連係学府**」を設置し、人文学とデータサイエンスのダブルメジャーの人材養成プログラムを構築することは、大きな意義を持つ。

この人文情報連係学府において、(i) 人文学が学びの主眼としてきた「人間存在の奥深さ」「文化・歴史・社会の多様性」を踏まえつつ、そこに(ii) ライブラリーサイエンス専攻において深められている**情報管理学の知見**と (iii) 数理・データサイエンス教育研究センターが提供する**データサイエンスの諸技術の原理と活用法**を学ぶカリキュラムを構築し、それを通して人文情報学を修めた修了生を輩出する。

本連係学府を修了した学生は、「**人間存在**」を**中心的視点に据えたデータ利活用**が可能になる。すなわち彼らは「人間社会のためのデータ活用」すなわち「**ウェル・ビーイングな社会の実現**」に寄与する人材として、社会に貢献することが期待される。昨今、「データ分析およびその活用」の普及が推進されている。しかし、実は「データ分析において、人間を中心とした視点が重要なこと」はあまり強調されていない。例えば、データ分析のデザイン（どのようなデータをどのような視点で分析するか）を決めるのは人間である。同様に人工知能についても「何を学ぶべきか」「何を正しいとするか」という根源的課題の担い手は人間である。人文学を起点とした本事業により、こうした「何をすべきか」を理解した上でデータ分析等を推進できる人材が養成できることになる。

本連係学府の修了生には、**ウェル・ビーイング社会の実現に向けた立案から分析までを俯瞰できる人材**としての期待が持てる。そして、EBPMを推進する各種行政、公共機関やSDGsなど人類社会の幸福を目指す各種企業への就職等といった進路が想定される。



ウェル・ビーイングの実現に貢献する高度人文情報人材養成プログラム 人文学×データサイエンスによる「人文情報学」大学院の設置



「人間存在」を中心的視点に据えたデータ利活用により
「ウェル・ビーイングな社会の実現」に寄与する専門人材



EBPMを推進する各種行政・公共機関
SDGsなど人類社会の幸福を目指す各種企業



人文情報
連携学府



主として人文学系学部の卒業生

事業の必要性

データ分析・AIには、人間を中心とした視点が極めて重要。例えば、どのようなデータをどのような視点で分析するかを決めるのは人間。同様にAIについても「何を学ぶべきか」「何を正しいとするか」という根源的課題の担い手も人間。ゆえに、**データ分析や人工知能により社会をよりよいものにしようとするならば、その上位概念として必ず「人間存在を中心とした視点」すなわち「人文学的視点」が必要。**

養成する人材

- これまでの人類の歴史と共に蓄積された様々な人文学の知見に基づく「人間存在を中心とした視点」を持ち、さらにそれを用いて、例えばウェル・ビーイング社会の実現に相応しい「価値観」を考えることができる。
- 分野横断的な知識とスキルにより、情報管理やデータ分析を専門する技術者との建設的な議論を行うことができる。
- さらに、自身の考えを具体的な分析タスクに落とし込んだり、さらにはデータ分析による限界や弊害を見出すためことができる。
- 必要に応じて、自分自身で必要な情報を管理し、プログラミング等によりデータ分析もできる。

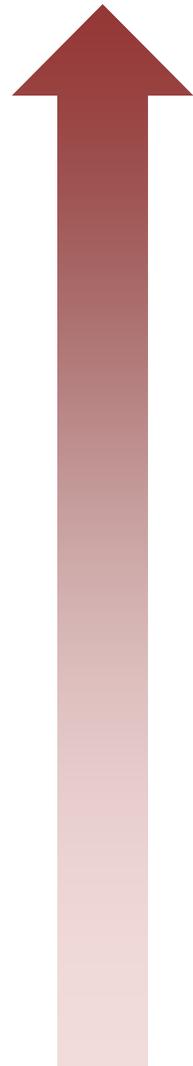
事業概要

本事業では、人間存在を中心としつつテキストや画像を対象とした実証的な分析を強みとする「人文科学府」、情報やデータをどのように保存し管理するべきかという専門的な研究を行う「統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻」、また、人社系を含めた広い範囲に対してデータサイエンス教育を行う「数理・データサイエンス教育研究センター」、この3つを中心として、研究科等連係課程の枠組みを活用した「人文情報連係学府」（修士課程）を新たに設置し、**人文学×データサイエンス「人文情報学」の学位プログラム（ダブルメジャー）**を構築。

研究科等連係課程の枠組みを活用した
「人文情報連係学府」の設置

人文科学府 人文基礎専攻・ 歴史空間論専攻・言語・文学専攻	統合新領域学府 ライブラリーサイエンス専攻	数理・データサイエンス 教育研究センター
----------------------------------	--------------------------	-------------------------

文理融合教育への強み ライブラリーサイエンス専攻：過去13年に渡る文理融合教育のノウハウ所有。数理・DS教育研究センター：過去5年間、文理の壁を越えたオープン型DS/AI教育を推進。



計 32単位	科目名	科目概要
論文指導 2単位 必修	論文指導	指導チームによる複数指導体制での論文指導
実践科目 4単位 必修	インターンシップ	行政や企業における研修
	アカデミックプレゼンテーション II	数理・データサイエンス教育研究センターにおいて、データサイエンスを専門とする研究者の前で研究発表を行い、討論を通じて理解を深める。
専門科目 18単位 (指導チームの教員と相談の上、各学生の興味に応じて、カリキュラムを構築する。)	人文学専門科目	人文学の様々な分野について、データのあり方と分析方法について探求する。
	情報管理専門科目	データの適正な管理方法とオープンな利活用について方法論を深める。
	データサイエンス専門科目	データサイエンスの様々な手法とその応用について理解を深める。
共通基礎科目 8単位 必修	人文情報学概論	人文情報学の全体像とこれまでの経緯
	アカデミックプレゼンテーション I	口頭発表や日本語・英語の論文の書き方についての演習
	情報管理基礎	データ管理についての基礎知識
	データサイエンス基礎	情報科学の基礎と機械学習

指導体制

- ・専任のコーディネーターの配置（プログラム全体を実質的に統括）
- ・指導チームを構成（関係する3部局の教員から学生の意志で決定（主指導教員1人、副指導教員2人以上））